



クイーン倶楽部だより 7月号

2017年

第173号

ERN 有限会社エコ・ライス新潟
 新潟県長岡市脇川新田町字前島970-100
 TEL 0258(66)0070 FAX 0258(66)0447
 URL <http://www.eco-rice.jp/>
 E-mail office@eco-rice.jp



6月12日・生産者研修会

田んぼの除草に アイガモロボ投入!



無農薬・減農薬栽培の敵と言え“雑草”。手で取るのは体力との勝負、かといってアイガモを投入しても、いうことを聞かずに草をとってくれないなんてことも。

そこで登場したのは「アイガモロボ」。ラジコンの要領で操作し、田んぼを縦横無尽に動き回って除草します。

研修の際に生産者にアイガモロボをお披露目。まだ試作段階ですが、高齢化する農家の手助けになるか期待がかかります。

ヤマト運輸 時間帯指定枠改定

**20～21時指定を
希望されている
会員の皆様へ**

勝手ながら19～21時枠で今後お届けさせていただきます

報道等で周知の通り、ヤマト運輸の時間帯指定区分が一部変更になりました。それに伴い、勝手ながら20～21時指定をいただいている会員様の時間枠を19～21時に変更させていただきました。その他の時間を希望される会員様は大変お手数ですが、弊社までご一報くださいますようお願いいたします。



中村 信也 (なかむらのぶや)

医学博士。東京家政大学家政学部栄養学科教授として教鞭をとり、「食と医療」の医療薬膳研究の第一人者として活躍中。

ドクター “N” の 私にも一言言わせて

その 27

※ドクター…英語で博士の意味

現状専門医制度では救急はできない!

私は古希を目前にしても月に一回山梨で救急医として働いています。昨日、しみじみ身につまされたことがあり、冒頭タイトルにの心境に至りましたのでしたためてみました。

昼過ぎの日曜日に下血が止まらない、ふらつく、健康保険は持っていない、の電話が入りました。ここでまず診察不可能になるのですが、救急当番でしたので引き受けました。六十三歳の男性が来院し、点滴を実施しました。しかし、下血は止まらず、血圧低下傾向となり、内視鏡的処置が必要となってきました。

そこで、入院先を探すべく六病院に連絡しましたが、脳外科です、泌尿器科です、内科だけと専門外、今多忙中、二次救急が引き受けられないのに三次救急が引き受けられない、大病院にだけ引受け体制がない、などの理由で断られました。幸いに十七時から消化器科の先生が来るので、引き受けられました。

今回の件で知らされたことは、狭い領域の専門ドクターの集合体では、消化器疾患という最多疾患ですら、符号ドクターを宛がうことはほぼ不可能ということでした。

救急医療は、新医療体制で当たらねばなりません。医療には救急(ホット)医療と、慢性(コールド)医療があります。現在の専門医は慢性医療の専門医であり、救急医療には無力です。救急医療能力は何でも救急に対応できる力です。医師は両能力を備えねばなりません。

救急を一人で診るといふ古典的手法が、医師が救急医療の能力を身につけるといふことを潰してきました。能力育成は市村が合体して、一つの救急救命センターを作り、常に複数(三人以上)のドクターであらねば、不安ということから解放され、徐々に救急医療能力を育ててゆきます。胸梗塞は迅速に「P.A」が合言葉になってきました。これこそがまさに複数医師センター構想作りとして進むべきものです。